



夢の残照 特別興行編



Vol.2

みき 「水月晶とく」

あきら 「……星野美樹の……」

みき 「夢の残照・特別興行編Vol.2」がはっじまるよっ！ って、晶！ ノリ悪!!」

あきら 「いや、そもそも本編があんな『続く!』で終わらせたまま放置している分際であの作者は一体何がやりたいのか……しかもまたこのパターンだし」

みき 「あははははは……今回ばかりはねえー コミティア・コミケ連続落ちたし、しかも絵描きさんであるHioshiさんは忙しすぎて身動きが取れない。他にもいろいろあったみたいだしねー」

あきら 「そういえば、とあるゲームのFDを期待していたけど、最終的に出ないことが分かって愕然としたりしてたわね……それでやる気無くしているとか、単に普段の行いが悪いだけでしょうが」

みき 「それを言ったら身も蓋もないよー」

あきら 「……で、今回は本気で新作無いわけね……」

みき 「うん、今回は『とても無理』って判断したから、作者さん早々^{はやばや}と諦めてたよね」

あきら 「どんだけ読み手を舐めているのよ、あの作者は……」

みき 「でも、組版ツール・威沙の開発はそこそこ頑張っていたみたいだよ」

あきら 「某chで紹介されてから急に使ってくれる人増えたわよね……あのツール」

みき 「縦書きの組版がある程度自動化出来るツールってあんまりないからね」

あきら 「だからこそ作ったんでしょうけど、作者は」

みき 「例えばTeXで組むとか……出来る人はいいいけど、あれは敷居高いしねえー 作者さんは学生時代にTeXで卒論書いていたみたいだけど、もう忘れちゃったみたいだし」

あきら 「その手の商用ソフトウェアは高いし、使いこなせるかわからないということもあるわね」

みき 「そうだねえー」

あきら 「でも、今公開しているテスト版でようやく『フォント変更機能』が入ったんでしょ

うみ 「うん、とりあえずちゃんと動いているみたいだよ。欧文フォントの変更も対応したみたいだし」

あきら 「だいたい、何でそんな普通にありそうな機能が無かったのよ……」

みき 「それは当然『必要なかった』から」

あきら 「……ちよつと待った。必要ないってどういうことよ？」

みき 「今時の人は気にしないと思うけど、文章中で頻繁にフォントが変わるのは良くないと昔はされていたから」

あきら 「とはいえ、要望があつたので実装したわけね……」

みき 「そういうこと。作者さんとしては要望があれば極力答えたいという方針だから。でも『他にも新機能満載でバグ過積載!』

って高笑いしてたけどね」

あきら 「……とりあえず、殴りに行つていいのかしらね……?」

みき 「まあ『バグのないコードなんて都市伝説』とまで言っちゃう人だからねえー 叩いたくらいでどーにかなるものでもないと思うよ」

あきら 「そういえば、度々出てくるけど威沙のページに書かれている『DLE』って何よ?」

みき 「DynamicLayoutEngineの略。キャッチーな名前がついているけれど、要は段組構成などを実現するための座標変換処理のことだよ」

あきら 「……またアレなネーミングセンスね……」

みき 「えー、いかにもそれっぽくてカッコイイほうがいいじゃない!」

あきら 「いや、この場合格好良いことにまるで意味がないから……」

みき 「それはともかく、最終的に段組対応が出来たら正式リリースにするかもって」

あきら 「他にもルビ処理の改修入れる気なんでしょ? 何時の話になることやら……」

みき 「改修というより実質作り直しだしねえー」

あきら 「……で、肝心の残照の続きはどうなっているの?」

みき 「とりあえず、新装版が先かな……既存の上中巻も在庫が無いからねー」

あきら 「本文はあるわけだし、あとはHioshiさんに頑張ってもらうしか無いのかしら……」

みき 「あー……その話なんだけど……」

あきら 「なによ、珍しく言いにくそうに……美樹らしくもない」

みき 「わ、わたしらしくないは余計だよ……実は作者さん、新装版に向けて第一話から読み直しをして文章のおかしい場所とか直していた……んだけど……」

あきら 「だけど……? 何よ勿体ぶったりして……」

みき 「もの凄く言い難いんだけど……気が付いたら『全文』書き直していたって……」

あきら 「…………はあっ……?」

みき 「だからすべての行に対して何らかの修正が入っていたんだって……」

あきら 「……確か『新装版は基本的に内容変わらない』って宣言してなかったけ? あの作者^{バカ}……」

みき 「確かに話の内容そのものは変わっていないくて、表現の見直しとかが主だからストーリー

「自体は変わってないよ。ただ若干後々設定がずれた箇所については補正しているらしいけどね」

あきら「本当に処置無しね……」

みき「どーかん……」

あきら「とりあえず、次のイベントはコミュニティなのかしら？」

みき「えっと、申し込みなのはそれと『コミケットスペシャル水戸』かな？」

あきら「ずいぶん珍しいイベントに参加するのね」

みき「わりと自宅から近いということもあるけど、スペシャル自体は参加したこと無いから試しに……ということでもあるみたいだよ」

あきら「でも、いくら都心から離れているイベントとはいえ、首都圏なんだからサークル数から考えると当選は難しそうね」

みき「参加することに意義があるとも言えるし、今年参加出来なかった分取り戻したいところだねー」

あきら「……参加する意義の前に、作品を作ることにも意義を見出して欲しいわ。早く直ぐに即座に」

みき「作者さんの全力全開で後ろ向き全速力な性格が改善すればもうちよつと良くなるかもね」

あきら「そもそも、これを前日に書いているくらいだし……」

みき「冬コミの一般参加列の中でひたすら03叩いて書いていたみたいだねえー 寒空の中で苦労様です」

あきら「それ以前にそんな限界ギリギリでないとペーパーですら手を付けない戲けつぷりは来年こそ良くなることを願っているわ」

みき「そういえば、来年出す本は買う人に心配されない値段にしようかと考えていたりするらしいよ」

あきら「コミュニティでも某chでも心配されていたわよね、確か」

みき「まさか値段が安すぎて心配されるなんて思いもしなかったよねー。そもそも『旅人のザック』のどの作品も値段なんてあつてないようなものだから、元から気にしてなかったとも言えるけど」

あきら「そういえば去年出した『Emergency』、あれ四百円にしているけど、正直なコスト出したら恐らく3倍くらいにして売らないとなくなるって言っていたわね……」

みき「……となると、来年もその辺りの改善は無理そうだね……」

あきら「……のようね……」

あきら「……さて、長々と戯れ言を宣ってきましたが、そろそろお開きの時間です」

みき「残念ながら今回はお手紙が届いたりしなかったので、ネタが尽きてしまったただけなんですけどね」

あきら「そこ！ 余計なことを言わなくてよろしい!!」

みき「それではみなさん！ また来年のいずれかの時にお会いしましょう！」

あきら「良いお年を！」

二〇〇九年十二月三〇日 特別興行編 おしまい

文責:風野旅人(tablio@din.or.jp)

旅人のザック(<http://www.din.or.jp/~tablio/>)

P.S.

あきら「……今回はオチがないの……?」

みき「オチのネタすら枯渇したって」

あきら「……………」

※このペーパーは新バージョンの威沙にて作成しました。